

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 25 日

所属	学長	職名	学長	氏 名	原科幸彦
研究課題	インパクト・アセスメント（IA）の理念と方法 ー日本のアセスメント制度のレビューを踏まえ				
研究キーワード	SDGs、IA、環境アセスメント		当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	15. 陸の豊かさも守ろう	

1. 研究成果の概要

SDGs は社会の全ての主体に環境・社会影響への配慮を促すものであり、とりわけ民間企業や公的組織など影響の大きな行為を行う主体は、アカウンタビリティを果たすために IA の適正な実施が必要である。今年度は、IA の代表である環境アセスメントと SDGs の関係について、これまでの研究成果をまとめ、『環境法研究』に論文を掲載するなどを行った。日本のアセスには情報公開と参加の両面で問題がある。

この点で、神宮外苑再開発計画の環境アセスメントは重要な課題を抱えている。この事例は東京都の条例アセスとして 2019 年に始まったが、2022 年から多くの問題が顕在化し社会的問題となっている。筆者は IA の専門家と共に研究活動を進めるとともに、学会やメディアを通じて社会に対し発言を続けてきた。2023 年 1 月 30 日の評価書公示の直前、イコモス日本委員会は評価書に多くの虚偽報告があると指摘したが、審議会はこの指摘に正面から答えず着工した。筆者はアセス専門家の責任を果たすべく、IAIA 日本支部の代表として支部会員と共にこのアセスを分析評価し、東京都知事に対し是正勧告を提出した。

2. 著書・論文・学会発表等

【著書・論文】

原科幸彦（2024）「SDGs と環境アセスメント - 簡易アセスメントの導入が持続可能な社会への道を開く -」『環境法研究』、No.18, pp.85-111. 2024.3.25

原科幸彦（2023）「戦略的環境アセスメントの導入に向けてーSDGs 推進の重要な手段」、『環境と公害』、52(4), pp.20-25. 2023.4.25.

Jaime A. Teixeira da Silva, Mikiko Ishikawa, Rochelle Kopp & Sachihiko Harashina（2023）“The importance of preserving the historical Jingu Gaien Park in the heart of Tokyo”, *Urbana*, Vol. 24, * Published online: December 20, 2023（査読あり）

原科幸彦（2024）「神宮外苑の世界遺産級の価値をどう守るか」、『住宅会議』、No.120, pp.47-49. 2024.2.

原科幸彦（2023）「時評： SDGs と人権ージェニーズ問題と神宮外苑再開発ー」、『私学経営』、pp.2-3. 2023.11.1

原科幸彦（2024）「リレーエッセイ： 藤前干潟アセスと神宮外苑再開発」、『環境と公害』、53(3), p.1, 2024.1.25

原科幸彦（2023）「千葉商科大学「自然エネルギー100%大学」への取り組みについて」、『クリーンエネルギー』、32(10)、pp.63-69. 2023.10.10.

【学会発表等】

Harashina, S.（2023）How Universities Could Lead Climate Action -RE100 University League in Japan, The 42nd Annual Conference of the International Association for Impact Assessment (IAIA23), Kuching, Malaysia, May 11, 2023

Harashina, S.（2023）How Universities Lead Climate Action -RE100 University League in Japan,

Keynote Speech of the University Can Lead ESG Forum, Swinburne University of Technology, Kuching, Malaysia, May 10, 2023

原科幸彦 (2023)「環境アセスメントと SDGs - 神宮外苑再開発計画アセスを事例に - . IAIA 日本支部公開シンポジウム『神宮外苑再開発は SDGs に適うか - 環境アセスメントのあり方を問う - 』、千葉商科大学・丸の内サテライトキャンパス (ハイブリッド)、東京、2023.6.24.

原科幸彦 (2023)「神宮外苑再開発の環境はアセスメントで守れるか - 日本の制度の効果と限界 - . 日本環境会議主催・『環境と公害』公開シンポジウム『SDGs に逆行する神宮外苑再開発』、オンライン (国際文化会館から)、東京、2023.8.5.

原科幸彦 (2023)「環境アセスメントの科学性と民主性 - 神宮外苑再開発計画アセスメントを事例に - 」、環境アセスメント学会 2023 年度大会、2023.9.1、千葉大学、千葉

原科幸彦 (2023)「環境アセスメント制度の改革 - 神宮外苑再開発問題の事例から - 」、日本環境会議第 38 回仙台大会、東北大学、仙台、2023.9.9.

原科幸彦 (2023)「神宮外苑再開発の環境アセスメント - あるべきアセスからの乖離 - 」東京三弁護士会・司法修習、東京弁護士会館、2023.10.11.

原科幸彦 (2023)「神宮外苑再開発アセスの諸問題 - 脱炭素、SDGs、民主主義」、日本不動産学会ワークショップ「脱炭素社会を見据えた都市開発のあり方 - 神宮外苑再開発を踏まえて - 」、日本不動産学会・資産評価政策学会 2022 年度秋季全国大会、熊本学園大学 (ハイブリッド)、熊本、2023.10.19、(報告掲載は、『日本不動産学会誌』、37(4) 通巻第 147 号、pp.163-178, 2024.3.29)

原科幸彦 (2023)「神宮外苑再開発アセスから考える合理的で公正な意思決定プロセス」、社会・経済システム学会第 42 回大会企画シンポジウム『複合的課題としての社会・経済システム』、早稲田大学・西早稲田キャンパス、東京、2023.10.29.

原科幸彦 (2023)「都市における公園緑地の価値を守る - 神宮外苑再開発アセスの事例」、千葉県高等学校教育研究会・理科部会生物分科会講演会、千葉商科大学、市川、2023.11.2.

原科幸彦 (2023)「カーボンニュートラルと都市 - 東京、神宮外苑再開発問題から考える」、獨協大学インターナショナル・フォーラム、オンライン (獨協大学から)、草加、2023.12.9.

原科幸彦 (2023)「神宮外苑の歴史的文化資産の価値を守る - イチヨウ並木と 100 年の森 - 」環境情報科学センター企画セッション『神宮外苑再開発の歴史的文化資産の価値を守る』、千葉商科大学・丸の内サテライトキャンパス (ハイブリッド)、東京、2023.12.17

3. 主な経費

国内諸学会でのセッションの企画運営及び発表、論文執筆等の作業に、消耗品費や資料収集費を使用した。対面での開催の他、一部はオンラインとのハイブリッドで開催された。対面での学会等に参加のため旅費も使用した。国際学会は International Association for Impact Assessment (IAIA)、国内学会は環境アセスメント学会、社会・経済システム学会、日本不動産学会、環境情報科学センターなどである。

4. その他の特筆すべき事項

IAIA 日本支部から小池百合子東京都知事に対し、神宮外苑再開発計画アセスの適正化を求める勧告を発出した (2023.6.15)。筆者は IAIA 日本支部代表として副代表らと共に記者発表を行った。

また、国連のビジネスと人権 WG が昨年来日調査を行ったが、その補足調査のため年明けに来日し、神宮外苑再開発問題について筆者指名でインタビュー調査を行い、これに答えた (2024.1.19)。

(本文は 2 ページ以内にまとめること)